



国民宿舎「くろさき荘」

業務を民間委託

4/1、リニューアルオープン

4月1日から業務を民間委託した国民宿舎「くろさき荘」

村では国民宿舎「くろさき荘」施設業務を4月1日から民間委託しました。オープン初日から3日間は、「普代こんぶ饅頭」に続く新たな特産品「普代こんぶラーメン」をプレゼント。本館の広間を通年無料開放するなど今後は、新しい企画を盛り込んだサービスを行います。

村で委託したのは、大新東株式会社（本社・東京都）で、平成18年3月31日までの一年間の委託契約となります。業務には、支配人に松崎博善さん（54歳・釜石市旭日区在住Ⅱ）を始め、料理長に鈴木年明さん（57歳・松尾村黒崎在住Ⅱ）、そのほかフロント、厨房、ウエートレスなど15人で行います。

4月1日、オープン初日の午後1時には、早速、入浴客が訪れ、スタッフ全員と深渡宏村長ほか関係者らがフロントで出迎え、(株)岩泉産業開発と共同開発した新特産品の

「普代こんぶラーメン」と粗品を贈りました。国民宿舎くろさき荘は昭和

国民宿舎「くろさき荘」
支配人

まつさき ひろよし
松崎 博善さん



「楽しい」と思える施設に

団体客が減少している中で、今は、目的をもった少人数の旅行客や家族客が増えています。これからは少人数、家族客にターゲットを絞り、その目的にあった企画を盛り込み、営業をしていきたいと思っています。従業員一同、気持ちを新たにして、今までのものに、付加価値を付け、創意工夫を加え、まず、皆さんが「来て楽しい」と思うような施設にしたいと思いますので、村民の皆さまもお気軽に当施設のご利用をお願いいたします。

39年にオープン。太平洋が一望できる、海の幸満載で低料金の国民宿舎として村のシンボリック存在となっていました。同56年には別館を増設、平成4年には展望風呂も増設し、村内の利用客でにぎわいました。
しかし、現在は旅行形態が団体旅行から、同じ趣味を持つ仲間同士や家族単位などの少人数の旅行に変わり、全国的な宿泊施設の利用客の減少につながっています。
かつてグルメブームや団体客などでにぎわった同荘もこれからは新しいスタッフで、恵まれた自然と海の幸に付加価値を加え、新しい企画を盛り込んだサービスを展開していきます。